

2023（令和5）年度以前入学者

令和6年3月26日
教養学部教務課前期課程

『履修の手引き』記載内容の変更について

2024（令和6）年度から、下記のとおり変更があります。本変更は、2023（令和5）年度以前に入学した学生にも適用されますので留意してください。

記

1. 総合科目の新設及び変更

（別表4）総合科目授業内容概要

区分	系列	大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定 セメスター・ターム	数単位
変更	B	古典文化論	西洋古典学	古代のヘレニズム（ギリシア、ローマ）やヘブライズム（旧新約聖書）の歴史、思想、文学について講義と講読を行う。 【2025年度よりS/Aに開講予定】	S	2
新設	C	現代社会論	性の政治II	【D&I科目】現代社会におけるジェンダーとセクシュアリティにかかわる政治について、理論と事例を通じて考察する。 【2024年度から新設】	A	2
変更	C	教育科学	高等教育論入門	学生にとって最も身近な組織である大学について基本的な知識を学び、その理解を深めつつ、大学とは何か、大学で何を学ぶのかを受講生が考える契機を提供する。 【2025年度より廃止】	A1	1
新設	C	教育科学	教育学のフロンティア	「教育とは何か」「善き人・善き市民になるとはどういうことか」といった教育の最も根本的な問いについて、哲学、歴史学、人間学、臨床哲学といった様々なアプローチから考察し、教育についてさらに深く学ぶための足場を提供する。 【1年生対象】 【2024年度から新設】	A	2
変更	E	生命科学	現代生命科学II（文科生、理一生）	私たちの身の回りの生命現象について、主に植物学の方面から講義を行い、科学的な思考法を学ぶ。	S1/S2/ A1/A2	1
変更	E	宇宙地球科学	惑星地球科学実習	岩石、地層、化石の解析方法の基礎の概説と実習を行う。 必要な知識・前提：大学入学までの理科。	S	2

				惑星地球科学の受講を前提としない。 【連続する週2コマで2単位】 <u>【2025年度よりS/Aに開講予定】</u>		
変更	E	宇宙地球科学	宇宙科学実習Ⅰ	観測データを用いた数値実習を通して、基本的な宇宙の姿を理解させる。 必要な知識・前提：大学入学までの理科と数学、論理的思考力。宇宙科学の講義を前提としない。 【連続する週2コマで2単位】 <u>【2025年度よりS/Aに開講予定】</u>	S	2
変更	E	宇宙地球科学	宇宙科学実習Ⅱ	天文データベースを用いた情報処理、画像処理により天体の基本的な姿を理解させる。 必要な知識・前提：大学入学までの理科と数学、論理的思考力。宇宙科学の講義を前提としない。 【連続する週2コマで2単位】 <u>【2025年度よりS/Aに開講予定】</u>	S	2
変更	E	生命農学	天然物の科学	天然物は、さまざまな生物において、その種に従って分布する化合物の総称である。個体内で機能するものから、種を越えて作用するものまで、その生理作用がおよぶ範囲は広く、かつ、多岐にわたる。医薬品として用いられている天然物は枚挙にいとまがなく、毒物としてわれわれ人類の生活に影響をおよぼす例も多い。2015年ノーベル医学生理学賞を受賞した大村氏の業績は、天然物に関する研究から生まれた。本科目では、天然物の自然界での役割、ならびに、医薬品・毒物としての天然物について学ぶ。なお、受講者は化学の基礎知識を持つことが望ましい。 <u>【2025年度より廃止】</u>	S1	1
新設	E	<u>生命農学</u>	<u>生命現象を司る物質の科学</u>	<u>天然物は、さまざまな生物において、その種に従って分布する化合物の総称である。個体内で機能するものから、種を越えて作用するものまで、その生理作用がおよぶ範囲は広く、かつ、多岐にわたる。医薬品として用いられている天然物は枚挙にいとまがなく、毒物としてわれわれ人類の生活に影響をおよぼす例も多い。2015年ノーベル医学生理学賞を受賞した大村氏の業績は、天然物に関する研究から生まれた。本科目では、天然物の自然界での役割、ならびに、医薬品・毒物としての天然物について学ぶ。なお、受講者は化学の基礎知識を持つことが望ましい。</u> <u>【2025年度より新設】</u>	<u>S1</u>	<u>1</u>

※2024年度以前に「天然物の科学」を履修し単位を取得した者が、「生命現象を司る物質の科学」を履修することは認められない。

2. 前期課程在籍中に開講される後期課程各学部の専門科目の新設

V 前期課程在籍中に開講される後期課程各学部の専門科目

(略)

なお、進学内定者は各学部の専門科目に加えてグローバル教育センターが開講するグローバル教養科目を履修することができる。履修登録および成績の取り扱いは専門科目に準じる。

(略)

3. その他の変更（他の通知等で周知している事項の追記および取扱いを明示するための修正）

II 各科目の履修方法

1. 履修に関する一般的注意事項

(1) セメスター毎の履修登録単位数の上限（キャップ制）

(略)

(表中)

(例外) 履修登録単位数の上限に含まれない科目

・集中講義（『科目紹介』（シラバス抜粋）『時間割表』において曜限欄に“集中講義”と記載されている基礎科目以外の科目）

(略)

2. 基礎科目の履修

(9) 自然科学 物質科学

(略)

① 「力学」

A、B 2 種類のコースが用意されており、各クラスに対して指定されている曜限枠に開講される。学生はどちらか一方を選んで履修する。

Aコース 一般選抜（前期日程試験）入学試験において物理を選択した者、および希望する者

Bコース 一般選抜（前期日程試験）入学試験において物理を選択しなかった者で希望する者、もしくは一般選抜以外の入学試験における入学者で希望する者

(略)

② 「電磁気学」

A、B 2 種類のコースが用意されており、各クラスに対して指定されている曜限枠に開講される。学生はどちらか一方を選んで履修する。

Aコース 一般選抜（前期日程試験）入学試験において物理を選択した者、および希望する者

Bコース 一般選抜（前期日程試験）入学試験において物理を選択しなかった者で希望する者、もしくは一般選抜以外の入学試験における入学者で希望する者

(略)

③ 「熱力学」

理科一類生のうち、一般選抜（前期日程試験）入学試験において物理を選択しなかった者で希望する者、もしくは一般選抜以外の入学試験における入学者で希望する者は、「熱力学」の成績と単位を「化学熱力学」で代替することができる。同じ曜限枠に開講される「化学熱力学」を履修するのが原則であるが、同じ曜限枠に開講されていない場合は他の曜限に開講される「化学熱力学」を履修する。

(略)

4. 総合科目の履修

(2) 履修上の条件を設けている総合科目

(略)

L	英語中級	・「英語中級・ Semester制授業」、「英語中級・ターム制授業」、「英語上級・ Semester制授業」の3種類の授業がある。 <u>すでに修得した</u> 同一教員による同一種類の授業を複数履修することはできない。 ・英語上級は一定以上の習熟度に到達した者を対象とする少人数授業である。
L	英語上級	

(略)

4. その他の変更 (わかりやすい表現にするための修正)

II 各科目の履修方法

2. 基礎科目の履修

(3) 身体運動・健康科学実習

(略)

「身体運動・健康科学実習 I、II」は全科類の必修で、各科目1単位、計2単位の科目群である。このうち、「身体運動・健康科学実習 I」は1 S Semesterに、「身体運動・健康科学実習 II」は1 A Semesterにクラス指定で開講される。そのうち「身体運動・健康科学実習 I」は1 S Semesterで、これを必ず履修する必要がありしなくてはならない。一方、「身体運動・健康科学実習 II」は1 A Semesterとにクラス指定で開講されることに加え、限定的ではあるが2 S Semesterのにも開講されるため、いずれかで履修する必要があるればよい (ただし、2 S Semesterでは開講は2 曜限程度の開講に限定されるのみで、またそれぞれの曜限で選択できる実技種目は一つか二つである)。

「身体運動・健康科学実習 I」の成績評価 (p. 〇〇) が「不可」または「欠席」となった場合は2 S Semesterに、「身体運動・健康科学実習 II」(1 A Semester) の成績評価が「不可」または「欠席」となった場合は2 S Semesterと2 A Semesterのいずれかに、それぞれ再履修が可能である。また、「身体運動・健康科学実習 II」(2 S Semester) の成績評価が「不可」または「欠席」となった場合は2 A Semesterに再履修が可能である。ただし、「身体運動・健康科学実習 I、II」の成績の平均が50点以上に達していれば、これらの再履修は必要ない(p. 〇〇参照)。

(略)

V 前期課程在籍中に開講される後期課程各学部の専門科目

(略)

各学部の専門科目については、2A1ターム・2A Semesterの初めに、各学部からそれぞれの進学内定者に対するガイダンス等で説明がなされるほか、『時間割表』にも、当該 Semester中に開講される専門科目一覧表が学部毎に掲載される。また、履修登録については、前期課程科目と同様の履修登録期間にUTASで行う。

各学部の専門科目を当該学部以外に進学する学生が履修した場合は、進学する各学部の規程にしたがって、選択科目・随意科目・他学部科目等の単位として、進学後に各学部で成績が処理され認定される。

専門科目の成績は後期課程の成績として取り扱われるため、前期課程の修了要件単位や進学選択に用いる点数には算入されない。成績等は各学部において通知されるので掲示等に注意すること。

前期課程在籍中に開講される専門科目の単位を取得していなくても、後期課程各学部に進学することはできるが、内定した学部・学科等が定める必修科目等の場合には、進学後に駒場 I キャンパスにおいて履修しなければならない場合がある。

~~各学部が開講する専門科目を、当該学部以外に進学する学生が履修した場合は、進学する各学部の規程にしたがって、選択科目・随意科目・他学部科目等の単位として進学後に各学部で成績が処理され認定される。~~

~~なお、前期課程在籍中に開講される専門科目の履修登録については、前期課程科目と同様の履修登録期間に UTAS で行う。~~

(略)

以上